

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300134		
法人名	社会福祉法人 真心会		
事業所名	グループホーム るんびにい苑		
所在地	島根県出雲市園町2606-1		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成30年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は山を整備した丘の上に建ち、眼下に宍道湖や田園地帯が見渡せ、四季を感じる事が出来る。天気の良い日はその風景を楽しみながらお茶会などを行っている。苑の行事で地域の皆さんとの交流を深めている。職員は、常に利用者一人ひとりに合ったケアを心掛けている。利用者とその家族からの要望や意向に少しでも寄り添えるように努力している。高齢の方が多くなっていて、思うように動けない事もあるが、るんびにい苑を利用して良かったと思ってくれるよう瘁いところに手の届くようなお世話が出来るようにしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苑では平成12年設立当時より働いている職員や長年勤務されている職員が多く、常に入居されている方のその人らしい生活の仕方や、家族との繋がり、住み慣れた地域の人々との繋がりを大切に、途切れないように関わりを大切にしている。職員の細かな連絡や穏やかな対応に対しての家族の喜びの声も多い。職員の生活の変化に応じた勤務体制もチームで臨機応変に対応しており、職員も落ち着いて働いている。最近から畑も作り、トマト、サツマイモ等の収穫も行われ、食す楽しみも一緒に行っている。個別で行きたい所への外出は行っており、新聞の広告を見て食べたい物を作ったり、購入したりと一人一人が楽しく生活することをいつも考えているグループホームの姿勢は素晴らしいと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として、三つの理念を挙げ、苑内に掲示している。スタッフで考えた事業所の理念も掲示している。	法人の3つの理念の掲示と共に、グループホーム独自で①家庭的な雰囲気作り②利用者は人として尊ばれる③生きがいを高める④地域との密着を図る⑤快適な環境作り、を家族さんに習字で書いてもらったものを掲示しており、意見を頂いたとき、トラブルのあった時に理念に基づいて対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや、幼稚園、小・中学校との交流(文化祭や体育祭)もしている。広報誌を近隣地区に配布している。	地域との交流は活発で、町内会(90世帯)の避難訓練も年に2回ほど行い、その後に介護保険や介護技術についての紹介なども行っている。又親子活動で窓ふきに来てもらったり、広く行事等にも行き来している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、ご家族や地域の方々に参加して頂き、意見の交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングやスタッフ会議の際に話をしたり、連絡ノートに記入して、サービスに活かしている。	運営推進会議では行事(10月のバーベキュー、3月家族交流会など昼食や生活と一緒にしてもらおう)報告や、運営推進会議で話し合われた事を職員と共有してサービスに活かす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者から最新の情報を推進会議の際に提供してもらっている。連絡協議会や研修会に参加する際に市の担当者と相談する機会がある。また、介護相談員の受け入れをしており、助言を頂いている。	市町村からの最新の状況や、介護相談員からの違う角度から見てもらおう提案等で、助言を活かしてケアを話し合いながら行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束委員会、事故防止委員会を設けている。日中は玄関は施錠せず、常に目配りをしている。研修会に参加している。	法人全体で年に1回行い、他に外に出での研修を積極的に行っている。気になる事はすぐに話し合っって職員同士でも気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止ケアマニュアルをいつでも見られるところに置いてある。言葉や身体的な虐待に繋がるような事はしないよう心掛けている。特に言葉かけについては、職員同士で注意し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	圏域の人権擁護の研修に参加して、勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族、ご利用者に説明を行い、入所当日にも改めて説明し、質問等あればいつでも受け入れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、家族会総会や、家族行事の時、運営推進会議で意見交換をしている。毎月の給食委員会や行事打ち合わせ会にご利用者も参加され意見を述べられている。また、介護相談員の受け入れにより、ご利用者の意見を聞き出してもらっている。	家族の意見が反映できるように、密に連絡を取り合って要望を伺っている。3か月に1回介護相談員も入ってもらい家族にも意見を聞いて活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	衛生委員会やスタッフ会議で意見を出し、検討してもらっている。	スタッフ会議を月に1回行い意見をいってもらえるような場所作っている。又職員に振り返りのノートを作ってもらい、得意不得意な事や今後の目標を聞く機会を作っている。自信をもって介護できる環境を作りたいと思っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の取り組みとして、衛生委員会で話し合い、働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修での研修に加え、圏域での外部研修に参加している。リーダー研修、実践者研修、介護基礎研修に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しネットワーク作りをしている。リーダー研修での巡回指導、他施設実習を行っている。研修参加時、他施設の方と名刺交換し関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査でご本人の不安な気持ち、ご家族の要望を聞く。出来る限り双方の意見を聞くようにしている。ご家族には、ご本人の気持ちを出来るだけ受け止めたいと話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちや、今までの精神的な・肉体的な介護疲れに対して、それぞれのご家族に対し個別の対応をしている。何でも話してもらえるような関係作りが大切だと考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、主治医と連絡を取り、入所について相談し、入所が本当に必要かどうか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者は、職員のお手本であり、知恵袋である。干し柿作りやちまき作りなど、職員が教えて頂く事が多い。朝の会などで食べたいおやつ、やりたいレクリエーションなどの意見を聞いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、出来るだけご本人の情報を伝え、思いや不安を伝えるようにしている。ご家族にはご利用者の日常の様子をお伝えるなどして、共に支えられる環境作りに努めている。遠方からのご家族の来苑時や行事の時に写真を撮り思い出作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの友達、知人にははだんどん面会に来てもらえるように声かけをしている。また、以前通っていたデイサービスのご友人に会いに出かけることもある。	近所の方が多いため、馴染みの友人、知人の訪問も多い。法人内に通うデイサービスに出かけて友人に会ったり、事業所に仕事に来ていた人がたまたま知り合いで、利用者の方からの声かけがあり盛り上がりがあったりと、馴染みの関係を大事に考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い悪いもあるが、孤独にならないようにしている。性格、生きてきた過程等様々なので、一番気を遣い、配慮している。無理に仲良くしてもらうのではなく、気の合う方と穏やかに過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受け入れる用意はある。近年は、法人内の施設へ入所される方ばかりであり、ご家族、ご利用者共に、自然と交流できている。退所されたご利用者が他施設で亡くなられた後、ご家族からお礼の言葉を頂いたことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中、言葉や表情から掴むようになっている。本心が中々言えない方には、ご家族から意見聞いたり、時間をかけてご本人の思いを掴むようになっている。	家族との確執や思い違いなどゆっくり時間をかけて解きほぐしていったり、本人の思いばかりでなく、家族の思いも汲んで聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人を理解する上で生活歴を知ることは大切な事なので、ご家族、ご本人に聞き取りをしている。あまり知られたくない方もいるので、プライバシーに配慮しながら行い、場合によっては現状で考えることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを時間をかけて理解し、無理のない一日の過ごし方をしてもらうよう努めている。出来る事、出来ない事を観察しご本人の力を維持するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人、ご家族からの聞き取りを行い、関係者でモニタリングを行い、カンファレンスを行っており、現状に即した計画にしている。現在困っている事が課題となる事が多い。	家族にもケアプランの説明をきちんと行い、チームで介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作成し、バイタルや食事、排泄や水分、会話の内容等の記録をしている。ご家族からの情報ややりとりも介護記録や連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添いなどはご家族にお願いしているが、都合の悪い時などは苑で対応し、ご家族から同席の要望があれば付き添う等、様々な要望に対し柔軟に対応している。最近はこちらが付き添う事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや、幼稚園、小・中学校との交流(文化祭や体育祭)をしている。美術館や買い物に出かける事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医に継続して診療をお願いしている。どうしても変更になる場合は、入所前に医師に会って話をしてもらい、安心して医療を受けられるようにしている。	入所前の医師の診察を継続して行っており、職員が診察に行き相談することも一つの勉強としてとらえている。大切な説明や現状の状況を家族に伝えたい時には家族に同行してもらおう事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な時には直接主治医に相談している。緊急時は併設施設の看護師に相談し応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が様子を伺いに足を運び、医師や、看護師が話された事を介護記録や連絡ノートに記録し周知している。入院の経過、退院に向けてはご家族と共にムンテラに参加するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをする予定は今の所ない。ご家族にも説明してある。重度化した方についてはご本人、ご家族の意向を踏まえながら、主治医と相談して対応している。	現状では看護師不在でもあり看取りは行ってはいない。入所時にご家族には説明をして、ご本人とご家族の意向を踏まえた対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が救命講習を受けている。AEDの使用方法の講習も受けている。苑内研修で看護師から吸引の講習も受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で、毎月避難訓練をしている。夏(夜間)、冬(早朝)は地域住民の方々も参加して頂いている。防犯マニュアルが作成された。	法人全体の避難訓練は定期的に行われている。年に2回、4町内50~60人90世帯の訓練は継続しており、その機会に介護技術や介護保険の講座を開いたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊敬の念を持ち、介助の際はさりげない声かけや対応をしている。	プライバシーを損ねない対応として、トイレに誘う時に手間であるが、1回部屋に誘ってからトイレの誘導をしたり職員同士で気が付くときはあとで助言等も行ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情などから、ご本人の思いをくみ取ったり、選択肢を用意するなど、出来るだけ自己決定してもらえるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はそれぞれのペースに合わせている。他のご利用者と食べたくない方は職員と食べたり、遅く食べたい方は時間をずらすなどして対応している。入浴は職員の都合の時間になっているが、足浴などは随時対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には、好みの服を買ってきてもらったり、一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、併設の特別養護老人ホームの厨房で作ってもらっているが、昼食に一品作りと週に一度おやつ作りをしている。ご利用者の希望されたものを作っている。一緒に買い物に出かけた際にメニューが決まる事もある。	昼食時、苑で作る1品には、広告を見て食べたいと思われる物や、買い物の際に食べたい物を購入したり、食べる事に楽しみを感じられる工夫をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は特別養護老人ホームの栄養士が考えているが、体重増加の方や小食、偏食の方については個別に栄養士、主治医に相談している。水分は出来るだけ勧めているが、ご本人の適量といえる量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には、ブラッシングやうがいを手伝っている。普段ご自分でされている方に対しては、義歯の具合はどうか聞いたり、食事の食べ方の変化に注意したりして必要な対策(歯科受診等)の手配をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、全員の排泄状況について把握している。尿便意の訴えの無い方に対しては、その方独自のサインを見つけたり、他のご利用者のいない時間を見計らって誘導したりしている。	排泄については全員の把握を行っており、尊厳を守りながら、行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し、便秘の方には散歩や体操、冷たい飲み物を勧める等している。食後もトイレに座る事を勧めている。どうしても便秘の改善が難しい方は、主治医に相談し下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	土日は入浴していないが、夏場などは臨機応変に対応している。足浴、シャワー浴は柔軟に対応している。勤務人数の関係で日中の入浴となっている。最低でも週に2回は必ず入浴できるようにしている。	できる限り柔軟な対応を行っている。保清ばかりでなく楽しい時間になるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日に不眠だった方や、体調の優れない方など、いつでも休めるようにしている。安眠できるように、就寝前の足浴を行う事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてもファイルしている。変更になった時は必ず確認する。バイタルの変化に注意し、主治医に相談する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に、ご利用者の経験や知恵が活かされる場面を作っている。外出や近隣の施設、イベント等に参加している。貼り絵や塗り絵等、趣味の活動をしている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の好みを把握して、喫茶店や道の駅、観光地などに出かけている。お好みドライブなど、希望に沿った場所に出かける事もある。	個別な対応を行っている。絵の鑑賞だったり、花を観たい人もいれば食事に行きたい、買い物に行きたい、出来るだけ意向に沿った外出を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあり、苑で預かっている。小遣い程度の金銭を自己管理されている方もいる。買い物際にはご自分で支払いをされる方もいる。また、ご自分で持ちたがらない方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人やご家族からお便りが送られてきた際には、直筆で返事を書くこともある。字を書くのが苦手な方は、電話を掛けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、壁飾りを作って飾ったり、季節を感じられる空間を作っている。テレビやラジオの音量もご利用者に聞きながら調節している。換気等臭いには気を付けている。	貼り絵をされている方の作品が掲示されたり、それぞれの個室には好きな写真やお花が飾られている。ホールは職員がどこからも様子が窺える配置なので安心感があり、天井が高いので圧迫感がない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は気の合う方と同じテーブルになるようにしている。読書をしたり、一人で過ごしたい時には、居室で過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具を持ち込んでもらうようお願いしている。ご家族が新しい物を持ち込まれる事もあるが、なるべく自宅にある物でとお願いしている。	家具もそうだが、壁に貼られている写真や飾りも今、個々に合わせて過ごしやすいようにレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	躓きやすいものは、通路に置かない。トイレや浴室、居室は分かりやすいように表示をしている。		